

社会生態学的生産ランドスケープ・ シースケープにおける レジリエンス指標 に関するツールキット



UNITED NATIONS
UNIVERSITY
UNU-IAS
Institute for the Advanced Study
of Sustainability



Empowered lives.
Resilient nations.

本書について

「社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープにおけるレジリエンス指標」は、国連大学が、2011年にバイオバーシティインターナショナル（Bioversity International）と協力して開発した指標で、社会生態生産ランドスケープ・シースケープ（SEPLS、日本では里山里海のこと）のレジリエンスを理解するための20指標から構成されています。2013年には、国連開発計画（UNDP）、地球環境戦略研究機関（IGES）も加わって、指標の見直しを行い、本冊子に掲載されている指標となりました。

詳細は第一章に記載されていますが、このレジリエンス指標は、地域レベルでレジリエンスを包括的に捉えるためのものであり、ワークショップ形式により住民が自ら評価を実施し議論を行うことで、地域の状態に対する住民間の共通理解を高め、地域の問題解決に向けた行動を促進することを意図しています。

本書は、現地での実際の使用を補助するためのマニュアル（ツールキット）として、上記4機関が共同で作成した以下の原語（英語）版の主要な部分を日本語に翻訳したものです。英語版、日本語版ともに、SATOYAMAイニシアティブのウェブサイト(<https://satoyama-initiative.org>) からダウンロード可能です。

UNU-IAS, Bioversity International, IGES, UNDP (2014) Toolkit for the Indicators of Resilience in Socio-ecological Production Landscapes and Seascapes (SEPLS). United Nations University Institute of Advanced Study of Sustainability, Tokyo.

なお、本書（日本語版）の作成は、農林水産政策研究所の農林水産政策科学研究委託事業「農村地域内外の多様な主体の連携による生物多様性の保全・活用活動のモニタリング・評価手法の開発」の一環として実施されました。

SATOYAMA イニシアティブ

SATOYAMAイニシアティブは、自然共生社会を実現することを目指し、国連大学と日本政府が共同で提案した国際的なイニシアティブです。日本の里地里山のような地域（社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ）の保全と持続可能な利用を通じて、世界規模での生物多様性の保全と自然共生社会の実現を目指すものです。

SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI）は、この理念を実現するために設立された国際的なパートナーシップであり、国連大学サステナビリティ高等研究所が事務局を務めています。本プロジェクトはIPSIのメンバーである4団体の協力活動として位置づけられています。なお、IPSIの活動は環境省により支援されています。

本書の引用にあたっては以下を参照してください。

国連大学サステナビリティ高等研究所・バイオバーシティインターナショナル・地球環境戦略研究機関・国連開発計画（2016）社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ（SEPLS）におけるレジリエンス指標に関するツールキット。国連大学サステナビリティ高等研究所，東京。

著者：ナディア・ベルガミーニ，ウィリアム・ダンバー，パブロ・エイザギレ，市川薫，松本郁子，ドゥンジャ・ミヤトヴィッチ，森元康行，ニック・レンブル，ディアナ・サルベミーニ，鈴木渉，ロニー・バルノーイ
日本語編集：市川薫，芹生和彦

© United Nations University, 2016

表紙・裏表紙写真：ネパール・ベグナス地域の農業生物多様性保全地域（© Bioversity International/ Dunja Mijatovic）

目 次

第1章 はじめに	2
1.1 このツールキットについて	2
1.2 社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ（SEPLS）とは	3
1.3 SEPLSのレジリエンス（回復力）とは	4
1.4 指標について	6
1.5 指標の利用対象者	9
第2章 指標	11
2.1 指標が評価する要素	11
2.2 指標の使い方	13
2.3 レジリエンス指標リスト	14
第3章 指標の活用に関する実践ガイダンス	21
3.1 ステージ1：準備	23
3.2 ステージ2：評価ワークショップ	28
3.3 ステージ3：フォローアップ	35

第1章 はじめに



インドネシア・セマウ島 (© Bingkai Foundation)

1.1 このツールキットについて

本ツールキットは、「社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS) のレジリエンス指標」を地域で実際に活用してもらうための実践的な手引きです。このレジリエンス指標は、地域コミュニティが自分たちの生活と密接に関係しているランドスケープやシースケープに対し、順応的管理を実施できるようにするためのツールです。本ツールキットで紹介するアプローチは、すでに各地で試験適用されており、この手法を用いることにより、地域が様々な社会的、経済的、生態的な変化や問題に対応する能力を高めるほか、環境や経済状況を改善して地域の社会生態的レジリエンス（後述）を向上させ、ひいては自然と調和のとれた社会の実現へと前進することが期待されます。

本書で紹介するアプローチは、コミュニティ参加型の「評価ワークショップ」を中心としています。このワークショップでは、20の指標を用いてディスカッションと採点を行い、ランドスケープやシースケープのレジリエンスに影響する要因について地域コミュニティの意識を明らかにします。参加者は、地域住民と当該地域のステークホルダー（利害関係者）です。こうした様々な人々がワークショップに参加し、ランドスケープ・シースケープの現況を評価することで、優先すべき取組を互いに確認し特定することができます。さらに、そうした話し合いの中で、関係

者間のコミュニケーションを活発にし、地域住民が自ら地域について考え、活動するための力をつけることが期待されます。ワークショップは地域コミュニティ内外の人々が計画立案・実施することが可能です。本ツールキットは、主に、レジリエンス評価ワークショップの開催者やファシリテーターを対象としています。

本ツールキット（日本語訳版）は3章から構成されています¹。第1章では、指標に関する概念的背景と目的、活用方法、利点について、第2章では、上述の20の指標について説明します。第3章では、地域コミュニティが開催する評価ワークショップにおいてどのように指標を活用するのか、その実践的な手順を解説します。ここでは、継続的かつ長期的な順応的管理を促進するため、フォローアップディスカッションを開催したり、ワークショップを繰り返す行など、ワークショップ前後とその開催中に実施すべきステップについても説明します。

次のセクションでは、ワークショップで使用する指標の特徴と目的を理解するための基本的な概念である「社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS)」と「レジリエンス」について概説します。

1.2 社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS) とは

人類は、農業、林業、漁業、牧畜、畜産といった活動を通じて、地球上の生態系の多くの部分に影響を及ぼしてきました。このような人間活動は環境に悪い影響を与えるものであると往々にして考えられがちですが、実際には、人類と自然の相互作用が生物多様性の保全を助け、相乗効果を生んでいる例も多くあります。人々が世界各地で周囲の環境に順応し、長期的に恩恵を享受すべく、長年にわたって努力を重ねてきたおかげで、持続可能なランドスケープやシースケープがつくられ、これらが食料や燃料などのモノや、水の浄化作用や栄養豊富な土壌の生成といったサービスを人間にもたらし、一方で、動植物の種の多様性を育んできました。

そうしたランドスケープやシースケープは、気候、地理、文化、社会経済状況によって様々に異なりますが、共通の特徴としては、ハビタット（生き物の生息・生育地）や土地・海の利用の、動的で生物文化的なモザイク構造がみられること、そこでは人々とランドスケープの相互作用が生物多様性の維持・向上に寄与すると同時に、人間の福利に必要なモノとサービスをも生み出していることが挙げられます。こうした場所には国や言語によって様々な呼び名があり、たとえばスペインでは「デヘサ (dehesa)」、ハワイでは「アフプアア (ahupua'a)」、日本では「里山」などと呼ばれています。「社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (Socio-ecological production landscapes and seascapes: SEPLS)」とは、そうした場所を総称して作られた名称です。

SEPLSは生物多様性の保全に役立つとともに、世界各地で人々に対し長年にわたり生態系サービスをもたらしてきました。しかし、近年食料などモノに対する人間の需要が急速に高まり、また、産業化や都市化、グローバル化によって社会経済システムが変化するのに伴い、様々なSEPLSにおいて、化学肥料や殺虫剤、除草剤等の人工的な物質が、外部からの資源投入により大量に使用され、より均質化されたシステムへと変容してきました。このような変化はやがて、農

¹ 英語版では、第4章で、評価のプロセスのいくつかの要素に焦点をあてた具体例を紹介していますが、日本語版では省略しています。



ブータン・ガムリ川流域にあるハビタットと土地利用の動的モザイク (© COMDEKS Bhutan/Dorji Singay)

業等の生産活動を支える生物多様性と生態系に極めて大きな影響を及ぼすようになりました。これらは、自然資源の劣化と生態系サービスの減少を通じて、SEPLSのレジリエンス（回復力）や持続可能性の低下を引き起こし、人間の福利を低下させることになります。

1.3 SEPLSのレジリエンス（回復力）とは

人々の暮らしは周囲の生態系と密接に関係していますが、それらは異常気象や市場危機、大規模な人口動態や制度の変化にいたるまで、その種類と程度こそ異なりますが、様々な圧力と攪乱にさらされることがあります。例えば、森林や農地、湖沼などの土地利用は、火事や暴風雨、干ばつの影響を受けます。また、ランドスケープやシースケープのほとんどが、人間に由来する圧力、すなわち、公害や土壌浸食、森林伐採、生態系の劣化につながるおそれのある外来種の持ち込みによって、ある程度の影響を受けています。さらに、政情不安や経済危機といった出来事も、人間社会に影響を与え、生態系から提供されるモノやサービスの使われ方に変化を与えます。こうした攪乱は、投入物価の上昇、生産量の減少、作物価格の下落等を通じて、地域の人々の暮らしに直接的にも間接的にも影響を与えるおそれがあります。このような短期的な変化や攪乱以外にも、比較的緩やかで継続的に進行する気候変動や社会文化的な慣行、制度の変化等も、生態系に影響を与える要因として挙げられます。

こうした変化には生態系と人々の暮らしに致命的な損害を与えかねないものもありますが、地域コミュニティがそうした影響を吸収したり、それに耐えたり、あるいはそこから回復したりする能力には、地域間で差があります。SEPLSが多様な圧力や攪乱を吸収し、そこから永続的な損害を受けることなく回復する能力は、生態的プロセスと社会経済活動双方の観点から、「レジリ

エンス」と呼ばれています。端的に言えば、レジリエンスとは、「システムが変化に対応し、発展し続ける能力、すなわち、ショックと攪乱に耐え、それらを機に再生と革新（イノベーション）を促進すること」を意味します²。SEPLSのレジリエンスを維持することは、生態系サービスと持続可能な生産システムとを長期的に確保するために必要不可欠です。またこれは、地域の人々に恩恵をもたらすだけでなく、グローバルな持続可能開発という目標にも寄与するものです。

地域コミュニティによるSEPLSのレジリエンスの強化

地域コミュニティにより、自然資源と生物多様性が適切に管理・利用され、SEPLSが長期的に持続している状態は「レジリエントなシステム」であるといえます。ところが多い地域では、ランドスケープとそれを支える社会生態的プロセスの保全において課題に直面しています。とりわけ社会経済システムが急速で複雑に変化し、さらに、気候変動と生態系の劣化がそうした変化に拍車をかけるなか、地域が直面する課題も増えつつあります。地域コミュニティは、生態系機能の保全や資源管理において重要な役割を担っています。したがって、こうした変化に適応し、ランドスケープやシースケープの社会生態的レジリエンスを回復、強化するために、従来の管理方法や制度や慣例を強化、革新していくことが求められています。

SEPLSのレジリエンスは、生態、社会、文化、経済などの様々な要素が互いに関係しあって、生み出されたものです。たとえば、生態系サービスの改善には、自然資源管理における新しい手法のほか、作物や動物といった生物種に新たな多様性が求められる場合があります。さらに、資源へのアクセスとその利用、交易に関する公式あるいは慣習的なルールなど、地域ガバナンスの適切なメカニズムも求められるでしょう。農業生態系の持続可能性を高めるには、作物の選定、生産、マーケティングにおいて女性が担う役割を支援するなど、アクセスと公平性の問題への対処も求められるでしょう。

互いに関係する社会生態システムを管理するには、複雑性を受け入れ、それに対処し、状況に絶えず順応する能力が求められます。こうした能力は、ランドスケープがもたらす様々な機能、モノ、サービスに人々が依存して暮らしている農村地域に特に関連性があります。本ツールキットに示すレジリエンス指標は、そうした地域での生産・資源管理に関する実践において、その計画立案から実施、モニタリング、評価にいたるまで、地域コミュニティの当事者意識の醸成に寄与することを意図したものです。これらの活動の中で得られる知識や教訓は、地域がレジリエントなランドスケープと生産性の高い生態系を目指しているということを発信するのにも有用です。さらに成果がより高次の政策・プログラムへと取り入れられていくことで、地域コミュニティの暮らしや、さらなる保全と資源管理に向けた計画に結びつくことが期待されます。

² ストックホルム・レジリエンス・センター(2014) レジリエンスとは何か？。 <http://www.stockholmresilience.org>

1.4 指標について

レジリエンスを強化するためには、地域コミュニティが自分たちのランドスケープやシースケープの現状とその変化をより包括的に理解する必要があります。しかし、レジリエンスは複雑かつ多面的なものであるため、その正確な計測が難しい場合もあります。本ツールキットでは、SEPLSのレジリエンス全体を明確に計測するのではなく、その最も重要な特性の把握を主眼とした一連の指標を用いてSEPLSをモニタリングする手法が採られています。

SEPLSのレジリエンス指標は20種あり、生態系、農業、文化、社会経済といったシステムの様々な側面を捉えるために開発されました。これらの指標には定性的なものと定量的なものの双方がありますが、その計測結果は、地域の人々自身による観察、集計、認識、経験に基づいています。指標は柔軟に使用できるものであり、各地域のランドスケープやシースケープや、地域コミュニティの状況に応じてカスタマイズすることが可能です。

本書の指標の活用の際に、ランドスケープやシースケープの範囲は、地域住民が自分たちの生存と暮らしのために依存する区域をどのように考えるかで決まります。通常そうした区域には、地域コミュニティが直接的あるいは間接的に依存するモノやサービスを生み出す土地利用が含まれます。あるいは、地域の人々が自然資源に対して直接的影響を及ぼし、生物多様性との間に絶えず相互作用を起こしている土地利用が含まれます。SEPLSは行政的な境界（国立公園や国境など）、または地理的境界（河川など）、もしくはその他要因で線引きすることが可能です。



ブラジル・ジェキティニョニャ溪谷にある放牧地のランドスケープ（© COMDEKS Brazil/Isabel Figueiredo）



フィジー・タベウニ島のボーマ国立公園のシースケープ（© Bioversity International/Dunja Mijatovic）



ネパール・ベグナス湖のランドスケープ（© Bioversity International/Nadia Bergamini）

本書に示す指標は、SEPLSのレジリエンスに必要な不可欠な社会生態プロセスに関するディスカッションや分析を行う枠組みとして、地域の中で使用されることを目的としています。SEPLSのレジリエンスは、暮らしや開発に関わる重要な目標と関係しており、そうした目標には、食料安全保障、農業の持続可能性、制度・人間開発、生態系サービスの提供と生物多様性の保全、地域レベルと広域レベルでの組織強化、公平性と持続可能性のあるランドスケープガバナンス等が挙げられます。本書に示す指標について地域内で話し合うことにより、知識の共有や分析が促進されます。こうした知識の共有と分析は、ランドスケープのガバナンス、計画、管理に要する社会資本を創出する鍵となるものであり、そうしたプロセスにおける人々の当事者意識を醸成するものでもあります。指標を定期的に活用することにより、開発と持続可能な管理という目標達成に向けて進捗状況を評価するとともに、地域による革新（イノベーション）と順応的管理に向けた優先事項を特定することが可能となります。

指標の活用は、次のような点で地域コミュニティやステークホルダーに益するものです。

❖ SEPLSのレジリエンスの理解を促進する

本書で紹介する指標は、SEPLSのレジリエンスをその現況と変化を含めて理解するための分析的枠組みとなります。地域に暮らす人々にとって分かりやすく、かつ使い易い用語で定義、説明され、連続した分析にも適用可能です。SEPLSの様々な側面について、その現状と変化の動向を評価することにより、ユーザーはレジリエンスを様々な要素をもつ目標として理解することができます。

❖ レジリエンス強化のための戦略の策定と実施を支援する

土地利用、保全、革新（イノベーション）に関する社会プロセス、制度、実践は、システムが順応し変化する能力を養うのに重要な要素ですが、本書で紹介する指標を活用することにより、こうした要素を特定しモニターすることが可能となります。評価結果について議論することで、例えば農業生物多様性や食料安全保障、生態系サービス、生計、ガバナンスなどに関する、注目すべき重要なポイントや要因について学ぶことができます。



キューバのクチラス・デル・トーア生物圏保護区の多様な土地利用が入り組んだランドスケープ

(© Frederik van Oudenhoven)

❖ 利害関係者間のコミュニケーションを強化する

共通の指標を有する枠組みとしてこれを活用することにより、地域内や、他地域と、これまでの経験を共有し、情報交換を促進することが可能となります。例えば、同一河川の上流と下流に位置する地域間や、地理的に離れたコミュニティ間での情報交換などが考えられます。

❖ 意思決定プロセスと順応的管理における地域コミュニティの力を強化する

指標の活用は、地域コミュニティ内で継続的な議論と参加を促進し、何がレジリエンスの強化に役に立つのかについての知識を蓄積することにつながります。順応的管理モデルは、SEPLSにおける地域コミュニティの当事者意識を高め、政策につながる積極的な行動をするようコミュニティを後押しするものです。また、指標をディスカッションの枠組みとして活用することにより、ランドスケープ全体でレジリエンスを向上させるために何をなすべきか、参加者全員のコンセンサス（合意）を導き出すとともに、その後の意思決定と活動の指針にすることが可能です。

1.5 指標の利用対象者

活用する指標は、地域コミュニティを対象に設計されたものですが、NGOや開発機関、政策立案者といった、地域コミュニティ以外の人々にも有効なツールになると考えられます。また、こうした指標は、地域コミュニティが自分たちのランドスケープやシースケープをどのように捉えているのかについて、研究者による理解も可能とするものです。地域コミュニティが自分たちだけで指標を活用するのが困難な場合には、ファシリテーターの役割がより重要となります。

以下は、指標が持つ利点をユーザー別に示したものです。

❖ 地域コミュニティ

- ・ SEPLSの状況やコミュニティが直面する脅威など、SEPLSについての共通理解を地域コミュニティ内外で深める。
- ・ 暮らしや福利の向上に資する、SEPLSを維持するための優先課題と実施事項を特定する。また、コミュニティによる過去の取り組みを評価する。
- ・ 地域コミュニティ内の信頼関係や社会資本を強化し、場合によっては紛争解決に寄与する。
- ・ SEPLSの現状と支援が必要な事柄について、政策担当者や資金提供者、利害関係者らに対し、より効率的に情報提供を行う。
- ・ 指標を利用したことのある他のコミュニティと意見交換を図る。

❖ SEPLSのプロジェクト実施に携わるNPOと開発機関

- ・ 地域コミュニティの視点からレジリエンスについて理解を深める。
- ・ 参加型プロセスを促進する。
- ・ レジリエンスや生物多様性保全に関するプロジェクトの効果をモニタリング、評価し、必要な支援内容を特定する。
- ・ 活動を行っているSEPLSの現状や支援が必要な事柄について、政策立案者や資金提供者とより効率的なコミュニケーションを図る。

❖ 政策・プロジェクト立案者

- ・地域コミュニティの視点から地域の状況について理解を深める。
- ・地域コミュニティとのコミュニケーションを促進する。
- ・改善が必要な事項を特定し、政策立案や計画、意思決定プロセス等に反映させる。
- ・共通の分析枠組みとツールを活用することにより、複数のプロジェクトサイト間で一貫性を強める。

❖ 研究者

- ・地域コミュニティの視点から地域の状況について多角的に理解を深める。
- ・様々なプロジェクトサイトから得られた成果を検討することにより、レジリエンスへの理解を深める。
- ・研究でまだ扱われていない分野を特定する。

第2章 指標



ブータンのワークショップにてレジリエンスの評価をする参加者 (© COMDEKS Bhutan/ Dorji Singay)

2.1 指標が評価する要素

SEPLSのレジリエンス指標で評価する要素には、相互に強い関係性があります。これらの要素には、5つの分野があります。

- ・ランドスケープ・シースケープの多様性と生態系保護
- ・生物多様性（農業生物多様性を含む）
- ・知識と革新（イノベーション）
- ・ガバナンスと社会的公平性
- ・暮らしと福利

ランドスケープ・シースケープの多様性と生態系保護

集約的に管理されたモノカルチャーが実践されている農業地域や、過剰な資源採取により大きく変容してしまったマングローブ、藻場、サンゴ礁などの海洋環境と比べると、自然の状態に近い複雑な構造を持つランドスケープやシースケープは、豊かな生物多様性を有しています。すなわちSEPLSでは、単純な生態系よりもレベルの高い生物多様性が実現しており、外部からのショックに対するレジリエンスも高くなると考えられます。気候変動の文脈においては、SEPLSにある河川流域や森林、沿岸の生態系を保全・再生することで、水資源や微気象を制御できるようになり、ひいては異常気象や洪水、干ばつの影響を緩和する役割を果たすようになります。

生物多様性（農業生物多様性を含む）

ランドスケープやシースケープ、そしてそれらに支えられる生態系の健全性は、そこに生息する種の多様性や相互作用に見ることもできます。またそれは、地域コミュニティの福利を支える物理的、文化的、精神的基盤となることが多くあります。生物多様性は、生態系サービスの提供を通じて、地域コミュニティとランドスケープ・シースケープのレジリエンスに寄与します。しかし、そうした生態系サービスは、自然資源の具体的な利用方法や制度によって、保全されることもあれば劣化することもあります。農業生物多様性には、食料や飼料、繊維、燃料として使用される種のほか、広大なランドスケープに生息する、収穫の対象外の種も非常に多く含まれており、こうした種には、生態系サービスを通じて地域コミュニティに有益となる、花粉媒介者や土壌生物相、害虫や病気の調整遺伝子などがあります。農業生物多様性は、実験や革新（イノベーション）、変化への適応に必要な素材を提供します。例えば地域の様々な作物や家畜に見る遺伝的多様性は、干ばつや冷害、塩害に対する耐性、害虫や病気に対する抵抗力といった重要な特徴として現れ、作物や家畜が様々な土壌・気候環境にも順応できるようにします。こうした特徴の多様性が失われれば、リスクを管理したり、変化に適応するためのオプションが少なくなります。

知識と革新（イノベーション）

地域コミュニティは、実験、革新（イノベーション）、そして知識、文化、世代等が異なるグループ内あるいはグループ間で行われる学習を通じて、自らのレジリエンスを強化します。適応戦略には新しいものもあれば、古いものもありますが、通常、その根幹には、生物文化的知識や伝統的な知識があります。こうした知識は、社会生態的背景や文化によって異なり、資源利用の実践方法、伝統的農業、言語、文化的価値観、社会制度といった面で違いが現れます。多くの地域では、ランドスケープやシースケープを形成してきた資源、生物多様性、歴史的出来事に関する知識が失われつつあります。こうした知識を保持していけるかどうかは、年長者や親から若者世代が知識を継承し、記録できるか否かによって決まります。

ガバナンスと社会的公平性

男女不平等や社会的排除・疎外というものは、女性や先住民族、その他少数派に属する人々が自分たちのランドスケープやシースケープのレジリエンスを強化しようとする力を阻害しかねません。女性や若者、年長者は、生物多様性に関して異なる知識と技能を有しています。先住民族のコミュニティでは、伝統的な自給自足の生活や文化遺産を守る取り組みとレジリエンスとが本質的に結びついています。そうしたコミュニティが生物多様性とそれに関連する伝統的知識を保持していくためには、先祖代々の土地を利用できること、伝統的な土地利用を行い、農業を営み続けることが重要な条件となります。

暮らしと福利

ランドスケープやシースケープのレジリエンスは、地域コミュニティの多様なニーズと要望に見合う、効率的かつ機能的なインフラ、すなわち通信、保健、教育などが整っているかにも左右されます。暮らしの改善は、コミュニティの住民が自らの創意工夫や利用可能な生物多様性の情報に基づいて展開する持続可能な経済活動や、それに従事する機会の有無に直接的に関係する可能性があります。

2.2 指標の使い方

以下に示す指標は、地域住民などが参加するワークショップで行うレジリエンス評価の指針として開発されました。これは、指標ごとに準備された「採点のため質問」（2.3指標リストの2列目）に対し、「現状」及び「変化の動向」について評価を行うものです。現状に対しては、指標リスト3列目に示す5段階評価に基づいて点数が与えられます。また、変化の動向に関する情報は、次に示すカテゴリーに基づいて評価します。

現状	変化の動向
(5) とても高い	↑ 上向き
(4) 高い	→ 横ばい
(3) 中程度	↓ 下向き
(2) 低い	
(1) とても低い	

指標リスト内の他の列は、各指標の質問の理解を助け、グループディスカッションの際に追加的な情報を得るためのものです。1列目は、採点対象の質問事項について説明し、用語の意味を具体的に示しています。4列目は、個人による採点后、グループ内でコンセンサスを形成する際に追加的に検討することが可能な補助的な質問事項を示しています。これらの質問事項は、予め決められたものではなく、ファシリテーターの裁量により、その場の状況に応じて変更することが想定されています。

指標によっては1列目に注記事項があります。これは採点対象の質問事項に答えやすくするためのものです。例えば、ランドスケープやシースケープの多様性について話し合う際には、3章で説明する参加型マッピング作業について言及するのが有効な場合もある一方、レジリエンスの概念の説明に使われる時間軸は、SEPLSの回復・再生能力について話し合う際の採点作業にも有効でしょう。これらの具体的な説明については、第3章をご参照下さい。評価ワークショップのイントロダクションの中で、マッピング作業と時間軸について説明しています。

2.3 レジリエンス指標リスト

指標の説明	採点のための質問	スコア（現状）	議論のための質問
ランドスケープ・シースケープの多様性と生態系保護			
（１）ランドスケープ・シースケープの多様性			
<p>ランドスケープやシースケープは、多様な自然生態系（陸地や海）と土地利用のモザイクで構成されている。</p> <p>例： 自然生態系：山、森林、草原、湿原、湖沼、河川、潟湖、河口、サンゴ礁、藻場、マングローブ林 土地利用：ホームガーデン、耕作地、果樹園、（季節的）放牧草地、採草地、養殖場、森林、アグロフォレストリー、灌漑用水路、井戸</p> <p>注記：ランドスケープ・シースケープの多様性と土地利用は、マッピング（地図化）作業によって示すことが出来る。</p>	<p>ランドスケープやシースケープは、多様な自然生態系（陸域、水域）や土地利用から構成されているか？</p>	<p>（５）非常に高い （多くの自然生態系や土地利用がある） （４）高い （３）普通 （２）低い （１）非常に低い （１つもしくはごく少数の自然生態系や土地利用しかない）</p>	
（２）生態系の保護			
<p>ランドスケープ・シースケープ内に、生態的あるいは文化的重要性を理由に保護されている区域がある。</p> <p>注記：保護の方法には、法律や条例等で定められている公的なもの、地域の慣習として決まっているものがある。神聖な場所など、伝統的な保護形態もこれに含まれる。</p> <p>例：厳格な自然保護区、国立公園、原生地域、遺産地域、地域コミュニティ保護区、海洋保護区、利用制限区域、聖地、牧草保護区、部外者による自然資源の（季節的）利用を禁止するルールや規制など</p>	<p>ランドスケープ・シースケープ内に公的にまたは慣習的に保護されている区域があるか？</p>	<p>（５）非常に高い （重要な資源には一定の保護措置がとられている） （４）高い （３）普通 （２）低い （１）非常に低い （保護されている区域は存在しない）</p>	<p>どのような方法で保護されているか？ どの生態系が保護されているか？</p>

指標の説明	採点のための質問	スコア（現状）	議論のための質問
（３）ランドスケープ・シースケープの様々な要素間における生態的相互作用			
<p>自然資源管理は、ランドスケープやシースケープの様々な構成要素間に生じる様々な生態的相互作用を考慮して実施されている。</p> <p>生態的相互作用の例：保全や再生の対象となっている場所は、授粉、害虫抑制、栄養循環、動物個体数の増加等を通して、他の場所にも恩恵をもたらす。森林は水資源を保護し、飼料や薬草、食料を提供する。農業活動は、ランドスケープの他の区域にも影響を及ぼす場合がある。海洋保護区は、それを設けることにより他の漁業区域に生息する海洋生物の個体数増加にもつながりうる（波及効果）。</p>	<p>自然資源を管理する際に、ランドスケープやシースケープの構成要素間の生態的相互作用が考慮されているか？</p>	<p>（５）非常に高い （自然資源を管理する際に生態的相互作用が考慮されている） （４）高い （３）普通 （２）低い （１）非常に低い （自然資源を管理する際に生態的相互作用が考慮されていない）</p>	
（４）ランドスケープ・シースケープの回復と再生			
<p>ランドスケープやシースケープには、環境的なショックとストレスから回復し、再生する能力がある。</p> <p>環境上のショックとストレスの例：害虫や病気の発生、暴風、異常低温、洪水、干ばつなどの異常気象、地震や津波、山火事</p> <p>注記：ワークショップのイントロダクションにおいて、近年発生した環境的なショックとストレスが記された時間軸が作成される場合は、本指標の採点時に参考情報として使用することが有用である。</p>	<p>ランドスケープ・シースケープは、極度の環境的ショックから回復・再生する能力があるか？</p>	<p>（５）非常に高い （非常に高い回復・再生能力がある） （４）高い （３）普通 （２）低い （１）非常に低い （回復・再生能力は非常に低い）</p>	<p>最近のショックやストレスに対して、地域コミュニティでは、どのような対応がとられたか？</p>

指標の説明	採点のための質問	スコア（現状）	議論のための質問
生物多様性（農業生物多様性を含む）			
（５）地域のフードシステムの多様性			
<p>ランドスケープやシースケープで消費される食料には、農地で育てられたものや、森林で採取されたもの、漁場で捕れた海産物がある。</p> <p>例：穀物、野菜、果物、ナッツ類、山菜、野草、きのこ類、ベリー類、家畜、牛乳、乳製品、野生動物、昆虫、魚、海藻など</p>	<p>地域コミュニティは、多様な地域産の食料を消費しているか？</p>	<p>（５）非常に高い （地域産の食料は多様で、これらは広く消費されている）</p> <p>（４）高い</p> <p>（３）普通</p> <p>（２）低い</p> <p>（１）非常に低い （地域産の食料はわずか、あるいは全く無い）</p>	
（６）在来作物の品種や動物の系統の多様性維持・利用			
<p>各家庭や地域コミュニティグループでは、様々な在来作物や動物の品種の多様性が維持されている。</p> <p>例：種子収集家、繁殖業者、繁殖業者のグループ、ホームガーデン、種子貯蔵庫</p>	<p>多様な在来作物や家畜品種が保全され地域で利用されているか？</p>	<p>（５）非常に高い （在来作物や家畜品種は幅広く保全され利用されている）</p> <p>（４）高い</p> <p>（３）普通</p> <p>（２）低い</p> <p>（１）非常に低い （在来作物や家畜品種はわずか、あるいは全く無い）</p>	<p>種子や家畜の品種の質は維持されているか？</p> <p>侵略的外来種による在来種の置き換えは生じていないか？</p>
（７）共有資源の持続可能な管理			
<p>資源の乱獲や枯渇を防ぐため、共有資源の持続可能な管理が行われている。</p> <p>例：放牧規制、漁獲割当、観光資源としての持続的な利用、野生動物の密猟や森林の違法伐採に対する規制、林産物の採取の規制</p>	<p>共有資源の持続可能な管理は行われているか？</p>	<p>（５）非常に高い （共有資源の持続可能な管理が行われている）</p> <p>（４）高い</p> <p>（３）普通</p> <p>（２）低い</p> <p>（１）非常に低い （共有資源の乱獲や枯渇がおこっている）</p>	<p>共有資源の利用の現状はどうなっているか？（森林、漁業資源、草地）</p>

指標の説明	採点のための質問	スコア（現状）	議論のための質問
知識と革新（イノベーション）			
（８）農業と保全方法における革新（イノベーション）			
<p>農業、漁業、林業の分野で新たな実践方法が開発、導入、改善され、伝統的な手法の復活も取り組まれている。</p> <p>例：点滴灌漑や集水農業等の水資源保護策の導入、営農システムの多角化、干ばつや塩害に強い作物の導入や再導入、有機農業、テラス（階段状の耕作地）造成、在来種の再導入、放牧地の移動・輪換、森林再生、サンゴ礁・海藻・マングローブの再移植、魚の産卵場所や隠れ場の保全、漁具の精選</p>	<p>環境の変化（気候変動など）に適応するため、地域コミュニティは、農林水産業や保全に関する実践方法の向上、開発、適用や、伝統的な手法の復活に取り組んでいるか？</p>	<p>（５）非常に高い （コミュニティは変化に受容的で自ら実践方法を調整している） （４）高い （３）普通 （２）低い （１）非常に低い （コミュニティは変化を受入れず、新しいことには取り組まない）</p>	<p>農林水産業について、どのような革新的な取組（イノベーション）が行われたか？</p>
（９）生物多様性に関する伝統的知識			
<p>生物多様性に関して地域コミュニティが有する知識と伝統文化が年長者や親から若者へと伝えられている。</p> <p>例：歌、踊り、儀式、祭り、物語、土地や生物多様性に関する地域独特の用語 漁業や作物の植付けと収穫、食料の加工や調理に関する特別な知識、学校のカリキュラムに盛り込まれている知識</p>	<p>生物多様性に関連した地域の知識と伝統文化が年長者や親から若者へと伝えられているか？</p>	<p>（５）非常に高い （地域の知識と文化伝統が若者に継承されている） （４）高い （３）普通 （２）低い （１）非常に低い （地域の知識と文化伝統は失われている）</p>	
（10）生物多様性に関する知識の文書化			
<p>地域にみられる農業生物多様性を含む生物多様性と、それに関連する知識が文書化及び保存され、地域住民が利用可能なものになっている。</p> <p>例：伝統的知識の記録、資源分類システム、地域コミュニティの生物多様性の記録、農家対象の実地教育、繁殖業者グループ、放牧地の共同管理組合、種子交換ネットワーク（動物・種子見本市等）、季節カレンダー</p>	<p>農業生物多様性と関連知識が文書化され共有されているか？</p>	<p>（５）非常に高い （文書化が十分に行われている） （４）高い （３）普通 （２）低い （１）非常に低い （文書化の取組は全くないか、わずか）</p>	
（11）女性の知識			
<p>女性の知識と経験、技能が地域コミュニティで認識され、大切にされている。（生物多様性やその利用法、管理については、女性が男性にはない特別な知識と経験、技能を有していることが多い。）</p> <p>女性が持つ特別な知識の例：作物特有の生産ノウハウ、薬草の採取と使用法、動物の世話</p>	<p>女性の知識、経験、技術が家庭、コミュニティ、ランドスケープレベルで認識、尊重されているか？</p>	<p>（５）非常に高い （女性の知識、経験、技術が全てのレベルで認識、尊重されている） （４）高い （３）普通 （２）低い （１）非常に低い （女性の知識、経験、技術は認識、尊重されていない）</p>	

指標の説明	採点のための質問	スコア（現状）	議論のための質問
ガバナンスと社会的公平性			
(12) 土地、水、その他の自然資源の管理に関する諸権利			
<p>土地、水、その他の自然資源に対する権利は、政府や開発機関等の関係機関により明確に規定され、認識されている。（こうした認識は、政策、法規等により公的に、もしくは慣習的に行われる。）</p> <p>例：土地利用グループ、コミュニティフォレストリー委員会、共同管理グループまたはコミュニティ</p>	<p>地域コミュニティは、土地や水、その他の資源に対し、慣習的にあるいは公的に認められた権利を有しているか？</p>	<p>(5) 非常に高い （権利は十分に認識されており争いはない） (4) 高い (3) 普通 (2) 低い (1) 非常に低い （権利は認識されておらず深刻な争いがある）</p>	<p>こうした権利は、アクセスや利用を保障するものか？</p>
(13) 地域コミュニティを中心としたランドスケープ・シースケープのガバナンス			
<p>ランドスケープ・シースケープの資源と生物多様性に関する効果的なガバナンスが実施されるよう、適切で、分かりやすく、透明性の高い組織や制度が設けられている。</p> <p>組織・制度の例：資源管理を目的とする組織・ルール・政策・規制・執行機関、伝統的権威と慣習的ルール、地元住民と政府との間の森林等の共同管理体制</p>	<p>ランドスケープ・シースケープや資源を効果的に計画・管理できる多様な主体が参加する制度や組織などの仕組みがあるか？</p>	<p>(5) 非常に高い （プラットフォームや組織・制度は、透明性があり参加型で効果的な意思決定が可能である） (4) 高い (3) 普通 (2) 低い (1) 非常に低い （多様な主体が参加できるプラットフォームや制度・組織は存在しない）</p>	<p>アクセスや利用といった観点から見て、自然資源の境界についての合意はあるか？ 政策や法規は効果的なガバナンスを支えるものになっているか。</p>
(14) ランドスケープ・シースケープ全体にわたる協力を支える社会資本			
<p>資源管理や、モノ、技能や知識の交換を支えるネットワークを介して、地域コミュニティ内外で住民の連携、調整が行われている。</p> <p>例：相互扶助組織、地域コミュニティ内のクラブやグループ（女性グループや若者グループなど）、地域間ネットワーク、自然資源管理に関する団体・連盟</p>	<p>自然資源の管理のためにコミュニティ内外の連携や協力関係、調整機能が存在しているか？</p>	<p>(5) 非常に高い （自然資源管理に関し高いレベルの協力や調整が行われている） (4) 高い (3) 普通 (2) 低い (1) 非常に低い （自然資源管理に関し協力や調整が全く行われていない）</p>	<p>外部への人口流出の状況はどうか？</p>
(15) 社会的公平性（男女平等を含む）			
<p>資源へのアクセスと権利、教育・情報・意思決定に対する機会は、女性を含むあらゆる地域住民に対し、家庭・社会・ランドスケープの各レベルで、公平かつ公正に与えられている。</p> <p>例：高地と低地にある地域コミュニティ、異なる社会・民族グループに属する地域住民等。 女性らによる意見と選択は、家庭内で何らかの意思決定を行う際、また地域コミュニティレベルで集団行動に関する意思決定を行う際に考慮されている。</p>	<p>家庭内、コミュニティ内、ランドスケープレベルにおいて、資源や様々な機会へのアクセスは、全ての人にとって公正で公平か？</p>	<p>(5) 非常に高い （資源や様々な機会へのアクセスは、全てのレベルで公正、公平である） (4) 高い (3) 普通 (2) 低い (1) 非常に低い （資源や様々な機会へのアクセスは、公正、公平でない）</p>	<p>意思決定は女性を含む全てのコミュニティのメンバーにとって、全てのレベルにおいて公正、公平か？</p>

指標の説明	採点のための質問	スコア（現状）	議論のための質問
暮らしと福利			
(16) 社会・経済インフラストラクチャー			
<p>社会・経済インフラは地域コミュニティのニーズに対して適正に整備されている。</p> <p>社会・経済インフラの例：学校、病院、道路、交通機関、安全な飲料水、市場、電気・通信インフラ</p>	<p>社会・経済インフラは地域のニーズに対し適正に整備されているか？</p>	<p>(5) 非常に高い (社会・経済インフラは地域のニーズに対応している)</p> <p>(4) 高い</p> <p>(3) 普通</p> <p>(2) 低い</p> <p>(1) 非常に低い (社会・経済インフラは地域のニーズに対応していない)</p>	
(17) 住民の健康と環境条件			
<p>地域住民の健康状態は、周辺環境の状態も考慮して、総合的に満足いくものである。</p> <p>例：病気発生の有無、多くの住民を巻き込む病気の発生頻度、環境ストレス（公害、きれいな水の不足、異常気象など）の有無</p>	<p>環境条件も考慮して、人々の健康状態は総合的に健全か？</p>	<p>(5) 非常に高い (健康状態と環境条件は良好である)</p> <p>(4) 高い</p> <p>(3) 普通</p> <p>(2) 低い</p> <p>(1) 非常に低い (健康状態と環境条件は悪い状態にある)</p>	<p>主なリスクは何か？ どのような薬が使われているか？（伝統的治療方法や、現代の薬など）</p>
(18) 収入源の多様性			
<p>ランドスケープやシースケープに暮らす人々は、持続可能で収入を生み出す様々な活動に従事している。</p> <p>注記：経済活動に多様性があるということは、予想外の景気低迷や災害、環境の変化などが発生した際に家計の助けとなりうるものである。</p>	<p>各家庭は持続可能で収入を生み出す様々な活動に従事しているか？</p>	<p>(5) 非常に高い (各家庭は持続可能で収入を生み出す様々な活動に従事している)</p> <p>(4) 高い</p> <p>(3) 普通</p> <p>(2) 低い</p> <p>(1) 非常に低い (各家庭は代替的な経済活動に関与していない)</p>	<p>どのような活動が収入を生み出すか？</p>
(19) 生物多様性に根ざした生計			
<p>対象ランドスケープやシースケープでの生計の向上は、その地域の生物多様性を活用する革新的な方法と関係している。</p> <p>例：その地域の原料を使った手工芸品（木彫り、バスケット、絵画、織物など）、エコツアー、地元食材の加工、養蜂など</p>	<p>コミュニティは、生計の向上のために、地域の生物多様性の新しい利用方法を開発しているか？</p>	<p>(5) 非常に高い (生計は地域の生物多様性の新たな利用方法により改善している)</p> <p>(4) 高い</p> <p>(3) 普通</p> <p>(2) 低い</p> <p>(1) 非常に低い (生計の向上は地域の生物多様性とは関係がない)</p>	

指標の説明	採点のための質問	スコア（現状）	議論のための質問
(20) 社会生態的な移動			
<p>土地劣化や乱獲を回避するため、各家庭や地域コミュニティは、生産活動や場所の移動が可能である。</p> <p>移動の例：移動耕作や輪作、農業・牧畜・漁業間での産業転換、遊牧民の季節移動、漁場の移動、困窮時に備えた保護地区の維持</p>	各家庭やコミュニティは、必要に応じて、異なる生産活動や場所の移動が可能か？	<p>(5) 非常に高い （移動に関して十分な機会がある）</p> <p>(4) 高い</p> <p>(3) 普通</p> <p>(2) 低い</p> <p>(1) 非常に低い （移動の機会はない）</p>	こうした移動を効果的に行うための合意されたルールや規制があるか？

第3章 指標の活用に関する実践ガイダンス



ケニア・キツイ地域 (© Ren Fujimura)

本章の目的は、レジリエンス指標の活用に向けてユーザーに具体的なアドバイスを提供することにあります。こうしたアドバイスは、地域コミュニティが積極的に参加できる評価ワークショップを立案、計画、準備、開催し、またその後の地域の生態系の回復・維持を目的とした活動を実施するのに役立つでしょう。

本書のレジリエンス指標は、政策立案や学術研究など様々な用途で活用することが可能ですが、通常は、地域コミュニティが開催する評価ワークショップで使用することを目的としています。ここに示すガイダンスは、主にレジリエンス評価ワークショップの開催者とファシリテーターを対象としています。

ランドスケープやシースケープは、その地理的規模やガバナンスの仕組み、ステークホルダー、文化伝統、資源などがそれぞれ異なるため、評価ワークショップとその後のフォローアップ活動には、地域に応じたアプローチが求められます。ファシリテーターやステークホルダーは、その地域特有の状況を反映し、なおかつ、その地域に適した方法を柔軟に見出す必要があります。レジリエンス評価は、通常、1) 準備、2) 評価ワークショップ、3) フォローアップという、主に3つの段階から構成されています。

準備段階では、地域コミュニティをベースとしたレジリエンス評価ワークショップを立案し、計画します。具体的には、評価目的の明確化、評価対象地の決定、対象のランドスケープ・シー

スケープや地域コミュニティとステークホルダーに関する情報収集、指標の現地語への翻訳といった実務的準備が含まれます。

評価ワークショップの実施段階では、地域のステークホルダーが対象のランドスケープ・シースケープのレジリエンス評価を実際に行います。通常、本ワークショップは、「概要説明」、「指標を用いた採点」、「ディスカッション、総括、今後の方策」から構成されています。本ツールキットでは、「社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ（SEPLS）」や「レジリエンス」といった馴染みの薄い概念についてファシリテーターが参加者らに説明し、参加者による積極的かつ有意義な活動を促進できるよう、アドバイスも提供します。

フォローアップ段階は、評価目的によって異なる場合がありますが、通常はランドスケープやシースケープの参加型管理・計画プロセスの中で評価結果を活用することを目的としています。本ツールキットでは、評価データと採点結果の分析方法、ステークホルダーらによるフォローアップディスカッションの開催手順、レジリエンスの向上に向けて優先する分野や地域コミュニティによる支援活動の特定などについて紹介します。

実践ガイダンスの概要	
ステージ 1： 準備	評価目的の明確化 評価対象地の選定 対象のランドスケープ・シースケープと地域コミュニティに関する情報収集 計画に携わるステークホルダーの特定 ランドスケープ・シースケープとその境界の明確化 ワorkshop参加者とファシリテーターの特定 ワorkshopの形式と期間の設定 指標の解釈と現地語への翻訳
ステージ 2： ワークショップ	イントロダクション 自己紹介 参加型マッピング 生物多様性についてのディスカッション レジリエンスについてのディスカッション 指標の説明 採点 個人による採点 グループによる採点 ディスカッション、総括、今後の方策
ステージ 3： フォローアップ	評価データと採点結果の分析 分析結果の発表と総括のレビュー 分析結果についてのディスカッションと主要テーマの特定 地域コミュニティでの活動に関するディスカッション 作業の評価

3.1 ステージ 1：準備

事前準備

レジリエンス評価ワークショップの詳細を計画する前に、評価目的や対象とするランドスケープ・シースケープなど、基本的な方針が参加者間で明確に理解されていることを確認する必要があります。関係者全員が同じ目的に向かって取り組んで行くには、皆で同じ理解を共有する必要があります。

評価目的の明確化

評価ワークショップの計画立案に参加する全員が、評価目的と期待される成果について明確で一貫性のある理解を共有することが重要です。評価目的は、その後の評価の実施の仕方にも影響を及ぼします。

活動のヒント

評価目的には、例えば次のようなものが挙げられます。

- ・対象のランドスケープ・シースケープの状況について共通の理解を得る。
- ・対象のランドスケープ・シースケープの強みと直面する脅威を特定する。
- ・地域コミュニティのレジリエンス強化に向けた能力形成に活かす。
- ・ランドスケープ・シースケープの管理に関する戦略を策定し、レジリエンス強化に向けた活動を特定する。
- ・地域コミュニティ内における信頼の醸成と社会資本の強化を通じ、わだかまりを解決する。
- ・対象のランドスケープ・シースケープや地域コミュニティのレジリエンスを一定期間にわたりモニタリングする。

評価対象地の選定

評価の対象となるランドスケープやシースケープは、評価の目的や投入可能な資源（人、時間、予算等）、そこに暮らす人々の関心事項や参加意思に基づいて決定する必要があります。

また、複数の中から特定のランドスケープやシースケープを選定する際には、自然資産や社会経済活動、文化遺産、脅威、優位性、特定の動植物種の存在や生物多様性の価値といった様々なパラメータを設定することも有効です。

対象地とそこに暮らす人々に関する情報の収集

対象とするランドスケープやシースケープに関する科学的・統計情報を得ることにより、対象地への理解が深まり、レジリエンスを適切に評価するための準備が可能となります。また、評価ワークショップ参加者やステークホルダーによる対象地の共通の理解を促し、評価の際に活用するのにも役立ちます。具体的には、土地利用や人口、降水量、生計手段、生物多様性やその価値等が挙げられます。

可能であれば、対象地で進行中の開発計画やプロジェクトに関する情報はじめ、政府やNGO、地域コミュニティに根ざした団体といった主要なステークホルダーが対象地域内にどのくらい存在するのかや、そうした関係者らの能力、レジリエンス向上に向けて何らかの潜在的機会や相乗効果が期待できるのか、といった情報も得ることが有効でしょう。



ネパール・ダマンでステークホルダーが集まりランドスケープの境界を検討する様子
(© COMDEKS Nepal/Top Bahadur Shahi)

計画立案に携わるステークホルダーの特定

対象地の主要なステークホルダーは、次の段階で事前協議を行う対象となるため、本段階で特定しておく必要があります。特定する際は、関連するあらゆるセクターを網羅するよう代表者を選定します。こうした代表者には、例えば、地域・全国レベルのNGOをはじめ、先住民族、女性、年長者、若者などのグループや、森林・農業管理担当官、協同組合や連合組織、地元農業者、漁業者、ホテル経営者や観光事業者の代表者などが含まれます。

事前協議と計画

地域のステークホルダーとの事前協議は、対象地と地域コミュニティについてより多くのことを学ぶとともに、地域のニーズに合わせて評価活動をカスタマイズするためにも有効かつ必要不可欠です。評価の目的や対象ランドスケープ・シースケープの定義と境界、参加者、ファシリテーターなどについては、一定のコンセンサスが求められます。

計画作業と地域ステークホルダーとの事前協議の過程で扱う項目について、以下に説明します。

活動のヒント

ステークホルダーとの事前協議により、次の点について理解を深めることができます。

- ・ 地域コミュニティの優先事項、環境の状態、社会経済状況、脅威等
- ・ 対象地における既存、あるいは今後展開されうるプロジェクトや計画
- ・ 対象地の様々なステークホルダーが有する能力
- ・ 他の活動と協力する機会
- ・ 地域コミュニティや、各種グループの代表者等、ワークショップへの参加者
- ・ レジリエンス指標の変化動向に適用するタイムフレーム（10年、30年など）



ランドスケープ戦略の策定について議論するカンボジアの地域住民 (© COMDEKS Cambodia/Ngin Navirak)

ランドスケープ・シースケープとその境界の明確化

評価の対象とするランドスケープやシースケープの具体的な内容は、地域コミュニティの視点に基づいて決める必要があります。ランドスケープやシースケープの境界（河川、行政的な境界、社会的定義など）は、地域の主要なステークホルダーとの話し合いを通じて、あるいはスケッチ、地図、対象地のGISデータなどを活用して検討すると良いでしょう。地域のニーズに応じて柔軟なアプローチを取りましょう。なお、これらについては、評価ワークショップの冒頭で話し合ってもよいでしょう。

レジリエンス評価ワークショップへの参加者の特定

ワークショップへの参加者は、ワークショップの目的や対象とするランドスケープ・シースケープに応じて大きく異なります。こうした参加者には、様々な利害を持つ地域のステークホルダーが含まれ、地元の農業者や漁業者、行政当局、民間セクターなどがそれにあたります。技術者が参加する場合には、分野横断的な専門知識も必要となります。

注意を要するのは、参加者の性別と年齢のバランスです。また、対象のランドスケープやシースケープに先住民族や少数派のグループが生活している場合には、こうした人々にも参加してもらうことが極めて重要です。対象とするランドスケープやシースケープの規模が大きく、広範に渡る場合には、対象地に暮らす複数の地域コミュニティからステークホルダーを集めることが重要です。

複数のグループからワークショップ参加者を特定するには、全てのコミュニティを事前に訪問するのが良いでしょう。コミュニティ側がワークショップの参加者を提案することも可能です。

ファシリテーターの特定

ファシリテーターとは、ワークショップの進行に携わる人であり、その役割には、ワークショップの開催、計画立案、司会進行、フォローアップなどがあります。また、評価ワークショップの円滑な進行に努め、参加者が積極的、かつ公平に参加できるようワークショップを主導することが求められます。

ワークショップとディスカッションで使用する現地語を理解できる人物を書記として選出することも重要です。この書記が作成する議事録は、後の「フォローアップ」の段階で極めて重要となります。

ファシリテーターとしては、対象地の地域コミュニティと関係がある人物が望ましいといえます。地域住民がSEPLSの管理に積極的に携わっている場合には、そうした住民自身がファシリテーターになることも可能ですが、その場合は、司会進行をするためのトレーニングを受ける必要があるでしょう。

ファシリテーター候補者として理想的な人物は、既存のプロジェクトを通じて地域コミュニティと強固な関係を築いてきた地元NGOやプロジェクトコーディネーターです。あるいは、ファシリテーターとなるためには、評価ワークショップ以前に、資料を参照したり、地域コミュニティの重要人物とディスカッションを行うなどして、地域コミュニティとの関係を構築し、対象のランドスケープとシースケープについて学習しておく必要があります。こうした場合、ファシリテーターは一定期間、地域コミュニティで過ごし、事前学習をする必要があります。

ファシリテーターは評価ワークショップ中、「社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS)」や「レジリエンス」といった概念を地域コミュニティとワークショップ参加者に説明するという極めて重要な役割を担います。そのためファシリテーターには、こうした概念を十分に理解し、必要に応じて指標を現地語に翻訳する、あるいはその地域の言葉で理解できるように言い換える能力が求められます。

ワークショップの形態と期間の決定

レジリエンス評価ワークショップは通常、1) イントロダクション、2) 指標ごとの採点、3) 結果についてのディスカッションと総括、という3つの主要部分から構成されています。ワークショップの時間は、制約の有無により調整可能ですが、これまで試験的に実施した結果、イントロダクションと採点には丸1日を要し（昼食と休憩を含む）、ディスカッションと総括には、さらに半日を要することが明らかとなっています。

評価ワークショップは、事前協議や現地訪問などで得られた情報に基づいて構成され、地域のステークホルダーとともに最終決定します。このため、計画立案の段階で対象のランドスケープやシースケープをはじめ、地域の社会経済状況や文化的背景などを十分に理解していることが重要です。たとえば、男性と女性では、ふだん担っている役割が異なることから、男女間で認識の相違が見られることも多く、往々にして指標の多くで見解が異なります。こうした場合には、採点プロセスではグループをさらに複数に分け、その後の全体ディスカッションで結果を統合するのが望ましいといえます。社会経済的地位が様々に異なる地域住民が参加する場合にも、同様のプロセスの採用を検討することができます。

評価ワークショップの実施回数・規模・期間は、利用可能な資源（人、時間、予算等）と地域コミュニティの参加可能人数によって異なります。多くの場合、農業者や漁業者といった地域住

民は、仕事で多忙なことから、実施期間を1～2日とするか、あるいは地域のステークホルダーのスケジュールに合わせて実施するのが賢明です。

指標の解釈と現地語への翻訳

評価ワークショップを行う前に、レジリエンス指標が参加者にとって、容易に理解できる言葉で表現されているかを確認することが極めて重要です³。対象地域でより理解しやすくなるよう、現地の状況に合わせる必要がある場合もあります。

活用する指標は、様々なタイプや規模のランドスケープやシースケープに適用できるよう開発されており、地域の状況に応じて指標内容を調整する必要があります。また、地域の状況に応じて新たな指標を設ける、あるいは、地域の状況に合わないと思われる指標は採用しないことも可能です。

活動のヒント

- ・ファシリテーターと参加者の全員に翻訳された指標リストを印刷して配布する。
- ・参加者全員に筆記用具を用意する。
- ・ポスターサイズの大判用紙のほか、マーカー、マッピング用のカラーペン、シール、テープ、ハサミなどを十分用意し、採点結果とマッピング内容などを大きく貼り出せるようにする。
- ・参加者に、必要に応じて飲み物や食事を用意する。
- ・会場までの参加者の移動手段を考慮し、必要に応じて交通手段を手配する。



ニジェールでのベースライン評価で石がマーカーとして使われている様子

(© COMDEKS Niger/Bassirou Dan Magaria)

³ 日本語訳注：本書では各指標の日本語訳を記載していますが、より地域の状況に適した言葉を用いるために、必要に応じて原語（英語）を参照してください。

3.2 ステージ 2：評価ワークショップ

イントロダクション（概要説明）

評価ワークショップでは通常、最初にファシリテーターが概要説明を行います。ここで重要なのは、参加者からのあらゆる質問に答えられるよう、十分な時間を確保することです。主要な概念の説明と質問への回答には数時間を要する場合があります。

この段階で参加型作業を行うことにより、参加者間で互いに話しやすい雰囲気を作るだけでなく、対象とするランドスケープ・シースケープとそこにある自然資源について共通の理解を得ることが可能となります。以下にそうした参加型作業の例を紹介します。

参加者の名前、年齢、性別のほか、居住している地域の名前や参加組織について尋ねる、あるいは、ワークショップ開始時に紙を配り、そうした情報を記入してもらうのも良いでしょう。

イントロダクション部分は、確保できる時間や人員、地域の状況、評価目的などによって左右されますが、次に挙げる事項を行うことを検討しましょう。

自己紹介

参加者が異なる複数の地域から出席している場合、またはファシリテーターなど、対象コミュニティ外からの参加者がいる場合には、各参加者に自己紹介のほか、評価ワークショップへの興味について話してもらうのが良いでしょう。

参加型マッピング作業

対象のランドスケープやシースケープの内容やその境界について共通の理解を得るには、参加者らに地図で表してもらうのが有効です（資源や土地利用、境界となる標識のほか、農業用地、水源、狩猟・漁業区域、建物など）。こうした参加型マッピングは、参加者にディスカッションへの参加を促すためにも有効です。

活動のヒント

イントロダクションでは、次の点について説明します。

- ・評価目的と参加してもらうことの意義…場所によっては、地域コミュニティ内で自由に開放的なディスカッションをするのが非常に困難な場合がありますので留意して下さい。
- ・「社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ（SEPLS）」と「レジリエンス」の基本概念…こうした概念を参加者全員が理解することが重要です。そのため、シンプルで理解しやすい言葉や例を用いて説明して下さい。社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープを表す絵や写真を用いることも有効です。
- ・「農業生物多様性」や「土地利用」といった指標に登場する概念…絵や図表の使用が有効です。
- ・レジリエンス評価の流れと評価に用いる指標…ランドスケープ・シースケープの生物多様性と生態系保護、生物多様性（農業生物多様性を含む）、知識と革新、ガバナンスと社会的公平性、暮らしと福利
- ・ワークショップのスケジュール…フォローアップセッションの予定を含みます。



ガーナでのベースライン評価ワークショップの様子 (© COMDEKS Ghana/George Ortsin)

生物多様性に関するディスカッション

❖ 農業・海洋生物多様性

果実、野菜、薬草、樹木、家畜、花粉媒介者、魚類、甲殻類、各種野生動物等について、現地での名称を含め、リストアップし話し合うとよいでしょう。

❖ 対象のランドスケープ・シースケープを構成する要素

農地、森林、河川、放牧地、湿地、水源、サンゴ礁等、こうした構成要素の現地名称もリストアップし、話し合うとよいでしょう。

レジリエンスに関するディスカッション

❖ 時間軸の作成

気候、環境面で発生した大規模な出来事や変化（干ばつ、洪水、暴風雨、地震など）を大判用紙に記入してみましょう。

❖ レジリエンスの説明

変化による影響からどう回復したか、といったことを参加者に自分の言葉で説明してもらいます（第1章「SEPLSのレジリエンスとは何か」を参照）。

❖ 順応の説明

干ばつや洪水、台風、地震、山火事、害虫、病気といった災害にどのように対処しているかを参加者に説明してもらいます。

❖ 指標の説明

一般的な指標の基本的考え方、またSEPLSのレジリエンス指標の概念について説明してください。また、レジリエンス指標の目的やその活用方法が、地域に益することを意図したものであることも説明しましょう。

採点

評価ワークショップの中で最も重要なプロセスは、20のレジリエンス指標に従ってランドスケープやシースケープについて参加者らに採点してもらう作業です。2章に示されている各指標には、採点の際に使われる質問事項のほか、必要に応じて注記事項と例、ディスカッション用の追加質問事項も付記されています。

採点結果を集計する実際の方法は、地域ごとに異なる場合があります。ファシリテーターはワークショップの計画段階で集計方法を決定しておく必要があります（各参加者に採点カードを配る、黒板に点数を書いてもらう、カップの中に点数分の小石を入れるなど）。

❖ 「現状」

指標の採点は5段階評価で行います。「1」は、対象のランドスケープ・シースケープの状態や機能が「極めて悪い」ことを意味し、「5」は、それが「極めて良い」ことを意味します（2章2.2参照）。

❖ 「変化の動向」

各指標で基本的な採点結果のみが得られれば十分な場合もありますが、余裕がある場合には、変化の動向に対する参加者自身の認識についても採点してもらいましょう。採点結果の理由、今後起こりうる問題点とその解決法についてもあわせて説明してもらうとよいでしょう。

「変化の動向」は指標ごとに定められたタイムスパン（5年、10年、30年など）で把握します。動向の評価は、通常、3段階評価（「改善傾向」「変化なし」「悪化傾向」）で十分ですが、より細かな5段階評価（「急速に改善」「徐々に改善」「変化なし」「徐々に悪化」「急速に悪化」）を適用することもできます。

レジリエンス指標については、参加者全員にわかりやすい形で質問することが重要です。そのためファシリテーターは、地域の事例を用いたり、地域の状況に合わせて質問事項を解釈したりするなどして、参加者への質問方法を事前に準備するのが良いでしょう。参加者が質問内容を理解しにくい場合、ファシリテーターは採点と変化の動向について説明し、参加者が理解しやすいようサポートすることが必要です。



ブータンでのワークショップでレジリエンス指標を使って地域のランドスケープを採点する参加者
(© COMDEKS Bhutan/Dorji Singay)

個人による採点

ファシリテーターは、各レジリエンス指標について質問する際、その地域の状況を考慮した上で、例を用いながら説明することが必要です。各指標について、参加者一人一人に採点してもらいます。

グループによる採点

個人による採点後は、各指標の質問事項についてグループ全体でディスカッションを行い、グループとしての認識に対して採点を行います。この時、参加者同士で各自の採点結果とその理由について共有し話し合った上で、グループ全体のコンセンサスを導き出すというやり方もありますし、単純に全員の採点結果から平均値を求めるというやり方もあります。このようにグループ全体で採点作業を行う理由としては、次の点が挙げられます。

- ・参加者同士が話し合う機会を作る。
- ・地域コミュニティ内外に存在する考え方の違いを特定する。
- ・対象のランドスケープ・シーンスケープの状況、それに対する脅威と解決策について、可能な限り理解を一致させる。

コンセンサスに達するためには、第2章のレジリエンス指標リストの4列目に記載されている追加質問事項について話し合っても良いでしょう。

グループによる採点の際には、採点シートをポスターサイズの大判用紙に作成し、各参加者の採点結果を書き出して、参加者全員がわかるようにするのも良いでしょう。こうすることにより、グループ全体で採点を行う際に全員参加を促すことが可能となります。

①	Domino	Mona	Mega	Julius	Belle	Diana	Pdu	Overall
1	4	4	3	5	3	5	3	4
2	3	3	2	3	2	4	2	3
3	3	3	4	4	2	3	3	3
4	3	3	3	3	3	3	3	3
5	3	3	3	4	3	3	4	3
6	2	3	2	2	2	2	3	2
7	2	2	2	2	2	2	3	2
8	2	2	2	2	2	2	2	2
9	2	2	3	2	3	3	1	3
10	3	3	4	3	3	2	4	3
11	4	5	4	4	5	3	4	4
12	2	1	1	1	2	1	2	2
13	5	5	4	4	5	5	4	4
14	4	5	4	4	4	4	5	4
15	3	4	4	4	3	3	4	3
16	5	5	5	5	5	5	5	5

ケニアにおけるワークショップで集められた採点結果
(© Bioversity International/Yasuyuki Morimoto)

活動のヒント

- ・ファシリテーターは、参加しやすく、話しやすい雰囲気作りに努め、参加者が評価プロセスに継続して関心を持ち、参加できるようにしなければなりません。
- ・時間の経過とともに物事がどのように変化を遂げてきたのか、そうした変化の動因がどのようなものであるのかを把握することが重要です。こうすることで、レジリエンス評価に続くフォローアップの一環として、地域コミュニティがレジリエンス改善に向けた戦略を策定できるようになります。

ディスカッション、総括、今後の方策

採点と同様に重要な作業となるのがディスカッションです。採点結果について積極的かつ有意義なディスカッションを行うことで、参加者は対象のランドスケープとシースケープのレジリエンスをどのように向上させるべきかを理解し、地域コミュニティで行うべき活動を特定することができますようになります。この段階で指標リストの追加質問事項（第2章参照）について尋ね、ディスカッションを進めても良いでしょう。

ファシリテーターはディスカッションを進める際に、参加者が自らの考えや見解、問題点、脅威、説明、解決策（災害等の変化の軽減と管理、変化からの回復に要する知識や実践方法等）について意見交換できるよう留意しなければなりません。参加者には、そうした点を理解した上で、ランドスケープやシースケープのレジリエンス向上に向けたオプションを模索し、自分達が講じるべき今後の方策を特定することが求められます。

ディスカッション中は、同じ意見の繰り返しになる場合でも、参加者全員が自由に意見を述べるようにしなければなりません。また、書記は、全員の発言を記録します。

活動のヒント

グループディスカッションでは、次のことを行います。

- ・ 評価結果の中で参加者が最も驚いた点について尋ねる。
- ・ 対象のランドスケープ・シースケープが直面する問題への解決方法を考える。
- ・ 対象のランドスケープ・シースケープでのレジリエンス改善方法について話し合い、改善に向けてコミュニティベースで実施可能な活動を特定する。

以下に、ディスカッション内容の具体例を挙げます。ファシリテーターは、ディスカッションをさらに深めて今後の方策を特定するため、場合によっては評価ワークショップの数日後または数週間後に再度話し合いの場を設けることも検討する必要があります。

採点結果についてのディスカッション

評価結果の総括を行った後、ファシリテーターは、図表や採点シートを貼り出し、対象のランドスケープやシースケープのレジリエンスの強みと弱みについて参加者に話し合ってもらいます。この時ファシリテーターは、改めて各レジリエンス指標の質問事項に触れるか、こうした指標の各サブカテゴリーに言及しても良いでしょう。参加者には採点結果とその理由について自らの意見を述べ、変化に対応するための実践方法について意見交換してもらいます。

活動のヒント

以下は、採点結果を収集した後の作業です。

- ・ レジリエンス指標のサブカテゴリー毎に平均値を算出する。
- ・ 大きな紙にレーダーチャートを描き、ディスカッション時に参加者が採点結果を視覚的に理解しやすいようにする。



モンゴル・ホント郡にて指標の採点結果について全員で議論する様子

(© Bioversity International/Ronnie Vernooy)

特定のテーマについてのディスカッション

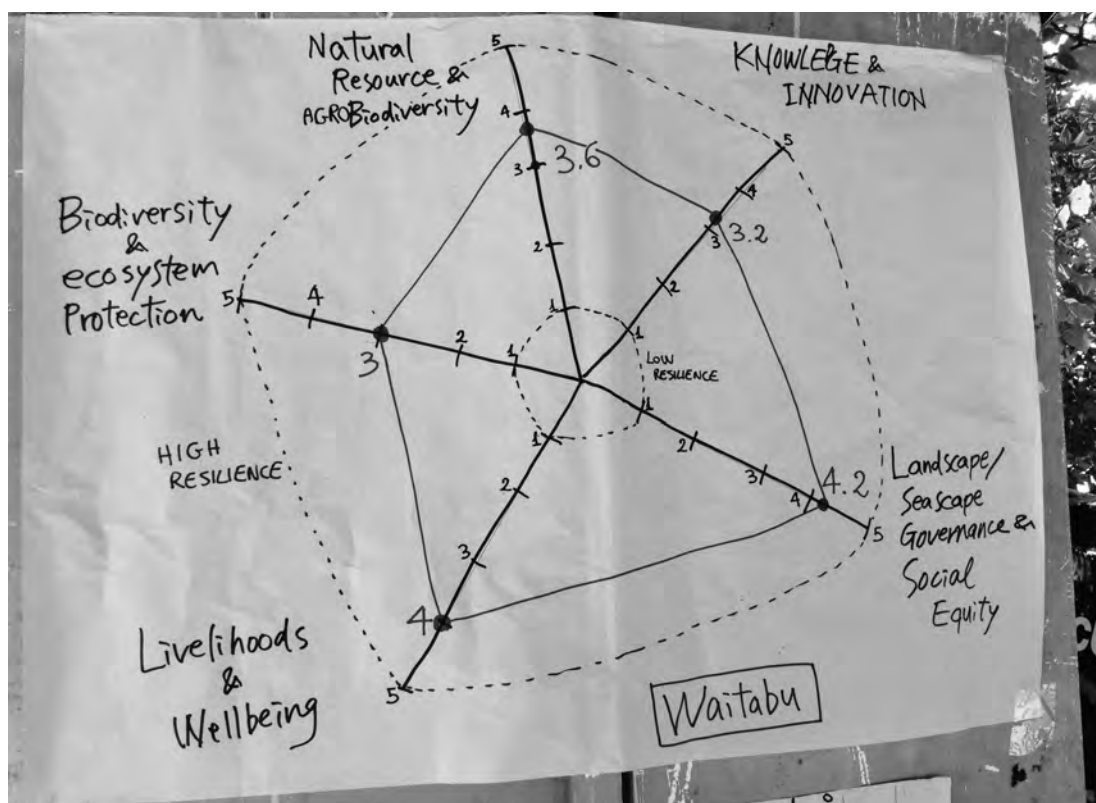
ファシリテーターは、地域コミュニティにとって最も重要なテーマを特定できるようディスカッションを誘導します。

ディスカッションの最重要テーマとしては、次のようなものが挙げられます。

- ・対象のランドスケープ・シースケープのレジリエンスに対して地域コミュニティが感じている主な懸念事項と脅威
- ・現在の実践方法を改善する必要性

地域コミュニティ内で実施可能な行動計画についてのディスカッション

重要なテーマが特定された後、ファシリテーターは、地域コミュニティの行動計画という形で今後の活動についてディスカッションするよう参加者を誘導しなければなりません。このように地域住民自らが行動計画を策定することは、地域コミュニティの当事者意識を高める上で重要です。



フィジーのワークショップで使用したレーダーチャート (© IGES/Ikuko Matsumoto)

活動のヒント

行動計画策定時に鍵となるのは、次の4点です。

- ・何をすべきか？
- ・誰が行うのか？
- ・誰がリーダーとなるのか？
- ・計画実施にあたり、外部の誰からサポートを得られるのか？

行動計画の主な事項には、例えば「対象のランドスケープ・シースケープの優先課題について理解を共有する」、「異なるセクター間の協力を促進する」、「ランドスケープ・シースケープの戦略を策定する」、「ランドスケープ・シースケープの順応的管理を行う」などが考えられます。策定する行動計画は、視野の狭い単一セクターにとらわれたアプローチではなく、ランドスケープ・シースケープ全体に及ぶアプローチに基づく多目的で包括的な戦略であるほうが有効性は高いといえます。

ワークショップについての評価

ファシリテーターが今後地域の状況に合わせてより効果的にワークショップを開催していくためには、評価ワークショップに関する参加者からのフィードバックが有効です。

3.3 ステージ 3：フォローアップ

ファシリテーターには、評価ワークショップの数週間後または数ヶ月後に、ランドスケープ・シースケープのレジリエンスをさらに高める手段の検討を目的として、ワークショップ参加者和其他ステークホルダーとの間でフォローアップ対話を開催するよう促し、可能であれば、実際にフォローアップセッションを開催することが求められます。

こうしたフォローアップは、評価ワークショップ後も継続するプロセスの一環として行われますが、その実施方法は、ワークショップの目的と性質によって異なります。たとえば、政府や資金提供者が出資する開発プロジェクトの特定のためにワークショップを開催する場合と、学術研究のためにワークショップを開催する場合とでは、評価結果の活用方法が異なります。ワークショップの評価結果を活用する方法としては、次のようなものが挙げられます。



モンゴル・ホント郡の遊牧民が指標を理解できるようサポートする様子
(© Bioversity International/Ronnie Vernooy)

採点結果と評価内容をさらに分析する

ワークショップで収集した採点結果データは、様々な種類の定量、定性、比較分析に利用可能です。これまでの動向を理解して、より有効性の高いフォローアップと戦略を特定するためにも、また科学的研究を行うためにも、そうしたデータの分析をさらに進めることが有効でしょう。

他のステークホルダーと評価ワークショップ結果を共有する

ワークショップの結果は、他のステークホルダーとも共有可能です。ファシリテーターは、図表や採点シートを使ってディスカッションの結果を共有することで、参加者が認識するランドスケープ・シースケープのレジリエンスに関する強みと弱みを明確に示すことができます。

地域コミュニティ内で具体的な行動計画を策定する

戦略や具体的な行動計画に検討を重ね、SEPLSのレジリエンス向上に向けてプロジェクトや活動を計画・実施できるようにします。また、そうした行動計画を実施するにあたり、参加者が講じるべき具体的な方策を明確化するのにも有効です。ここで忘れてはならないのは、現時点の資源（人や予算等）で達成可能な短期目標と、SEPLSの継続的发展という長期目標との両面を考慮すべきであるということです。

順応的管理に向けたレジリエンス評価を繰り返す

ランドスケープ・シースケープの順応的管理では、指標を一度限りの作業ツールとして活用するのではなく、プロジェクトの実施期間全体にわたって活用するのが良いでしょう。ランドスケープ・シースケープの戦略は、定期的な評価に基づいて修正を加えていくことが可能です。そのため、ディスカッションには十分な時間を確保してデータが示す変化を理解し、それに従って戦略を順応させていく必要があります。また、評価に影響を与える恐れのある、季節的变化にも注意を払い、必要であれば毎年同じ時期に採点作業を実施するよう試みましょう。

評価後のフォローアップ活動

地域コミュニティやNGOによる活動

❖ 対象のランドスケープ・シースケープの優先課題について共通理解を広める

- ・対象のランドスケープ・シースケープの現状について、ステークホルダーの認識に基づいた議論を行い、協力して行う作業の優先度を検討する。
- ・目標と期待される成果について、対象のランドスケープ・シースケープレベルでコミュニケーションを促進する。
- ・地域コミュニティが対処すべき優先課題を特定する。
- ・生計の改善を含め、地域コミュニティのレジリエンス強化について、それに対する主な脅威を特定し、支援内容を検討する。

❖ 異なるセクター間の協力を促進する

- ・対象のランドスケープ・シースケープのレジリエンス強化を支援してくれる協力者を特定する。
- ・様々な主体間のパートナーシップを強化し、対象のランドスケープ・シースケープの持続可能性とレジリエンスを確保する。

❖ ランドスケープ・シースケープの戦略や管理計画を策定する

- ・ランドスケープ・シースケープのレジリエンスを強化する戦略や行動計画を策定する。
- ・ランドスケープ・シースケープ管理における意思決定プロセスにおいて、地域コミュニティの参加を地域・国家レベルで促進し、政策立案者とのコミュニケーションを緊密化する。
- ・地域レベルでのランドスケープ・シースケープの取り組みを国家レベルの生物多様性戦略・行動計画、その他開発計画に反映させるため、ワークショップの結果を国家レベルの主要なステークホルダーに提供し、政策立案者とのコミュニケーションを強化する。

❖ ランドスケープ・シースケープの順応的管理を行う

- ・ランドスケープ・シースケープの変化のモニタリングを継続するため、そのベースラインとして評価結果を活用する。
- ・ランドスケープ・シースケープの順応的管理を実現するため、レジリエンス評価を定期的実施する。

政策立案者による活動

- ・レジリエンス評価を意思決定ツールとして活用することにより、地域・全国レベルで支援すべき優先事項を特定し、開発戦略を策定する。
- ・多様なステークホルダー間でランドスケープ・シースケープの参加型管理を促進する。
- ・ランドスケープ・シースケープに関わる各種プロジェクトの計画立案・実施段階で統合的アプローチを特定する。

レジリエンス評価で頻繁に指摘される課題

ディスカッションに十分な時間を割く

ファシリテーターが作業の目的を十分に説明せず、たとえば採点結果を得ることだけに注力すれば、参加者の間で十分なディスカッションがなされず、地域コミュニティが参加するという意味ではワークショップの有効性が下がってしまうでしょう。

地域コミュニティからの期待を管理・コントロールする

レジリエンス評価ワークショップについては、それに対する地域住民からの期待を管理、コントロールすることが重要です。地域コミュニティには、評価ワークショップがレジリエンス改善に向けて継続的に、かつ住民参加型で行われるプロセスの一環であるということを理解してもらう必要があります。

女性を含むステークホルダーの参加を促進する

特に大規模なランドスケープやシースケープで評価を行う場合には、地元の協同組合や地域コミュニティの代表者のみがワークショップへの参加を求められ、そのほとんどが男性である場合があります。ジェンダーのバリアを克服するためには、時間と条件が許す限り、女性を対象とした家庭訪問を別途行うことを強く推奨します。

フォローアップディスカッションに十分な時間を割く

より多くの地域住民の参加を得るためには、地域レベルでフォローアップのワークショップを開催し、評価ワークショップを補完することが可能です。こうしたフォローアップにより、今後の課題について地域コミュニティで見解を共有し、ディスカッションを深めていくことができます。

指標に用いる用語をカスタマイズする

指標を説明する用語の全てを、参加者の能力に合わせてカスタマイズすることは極めて重要です。指標の説明で使用している用語は、多くの人にとって容易な理解が難しく、複雑すぎる場合があります。ファシリテーターは、参加者全員がそうした用語と概念を理解できるように、用語を簡単なものに置き換え、地域コミュニティにふさわしい具体例を用いると良いでしょう。対話型のマッピング作業とランドスケープ・シースケープの写真は、保全の優先度を空間的に捉えるとともに、SEPLS のレジリエンス向上に向けた実践的解決策を引き出す上で、とりわけ有効性の高い手段となるでしょう。



お問い合わせ先
IPSI事務局
(国連大学サステイナビリティ高等研究所)
Eメール : isi@unu.edu

<http://satoyama-initiative.org/ja/>